

MONITOUCH

テクニカルインフォメーション

2018年3月13日

テーマ	キーエンス KV シリーズ シリアルコミュニケーションユニットとの接続		
該当機種	V9 シリーズ	No. TI-M-1216	1/7

1. 目的

KV シリーズシリアルコミュニケーションユニット (KV-L20/KV-L20R/KV-L20V) は、RS232C 専用 D-Sub9 ピンコネクタ (PORT1) と、RS232C/RS422A の切替が可能な端子台 (PORT2) の 2 つのシリアルポートを装備しています。

本資料では、PLC: KV-5000 + KV-L20V との接続を例にして説明します。

※CPU 型式とシリアルコミュニケーションユニット型式について

エディタPLC選択	CPU	ユニット
KV-700	KV-700	KV-L20
		KV-L20R
KV-1000	KV-1000	KV-L20R
KV-3000/5000	KV-3000	KV-L20V
	KV-5000	

2. 接続環境

モニタッチ : V9100iS

PLC : KV-5000 + KV-L20V

使用ソフト : V-SFT-6、KV STUDIO Version 8.01

3. 設定方法

KV-L20V の PORT1 または PORT2 に、以下の設定で接続します。

ボーレート : 115K bps

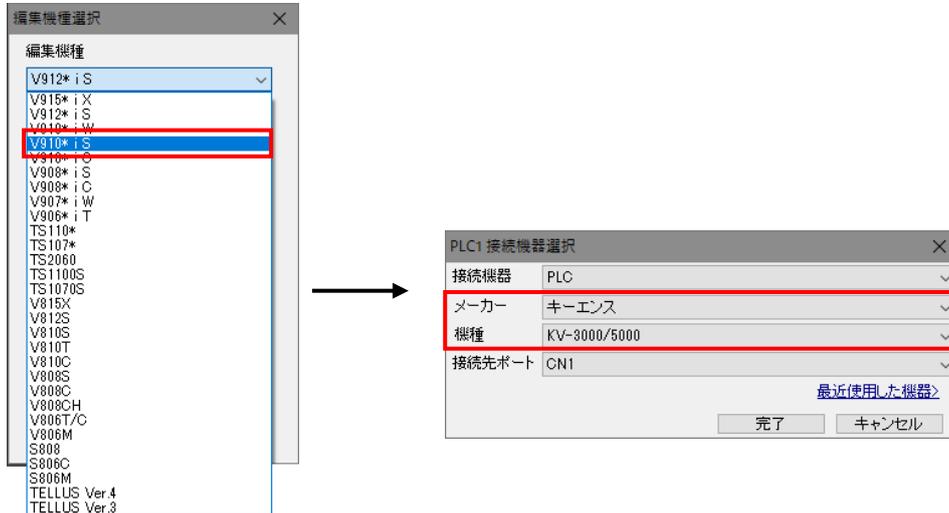
データ長 : 8 ビット (固定)

ストップビット : 1 ビット (固定)

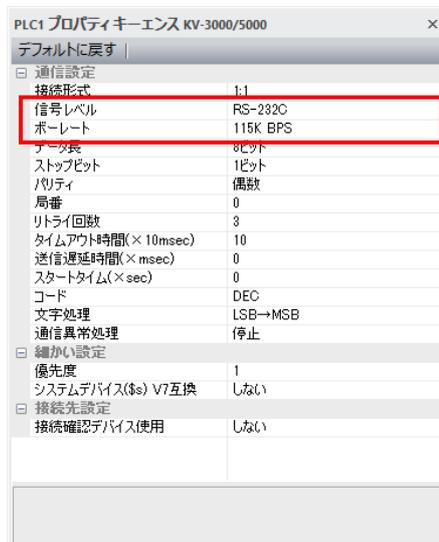
パリティ : 偶数 (固定)

V-SFT-6 の設定

- V-SFT-6 を起動し、新規画面を作成します。
 [編集機種選択] で、モニタッチの機種を選択し、[OK] をクリックします。
 次に、[PLC1 接続機器選択] で「キーエンス KV-3000/5000」を選択し、[完了] をクリックします。



- [PLC1 プロパティ] の「通信設定」で、モニタッチの信号レベル (RS-232C または RS-422/485) とボーレートを設定します。



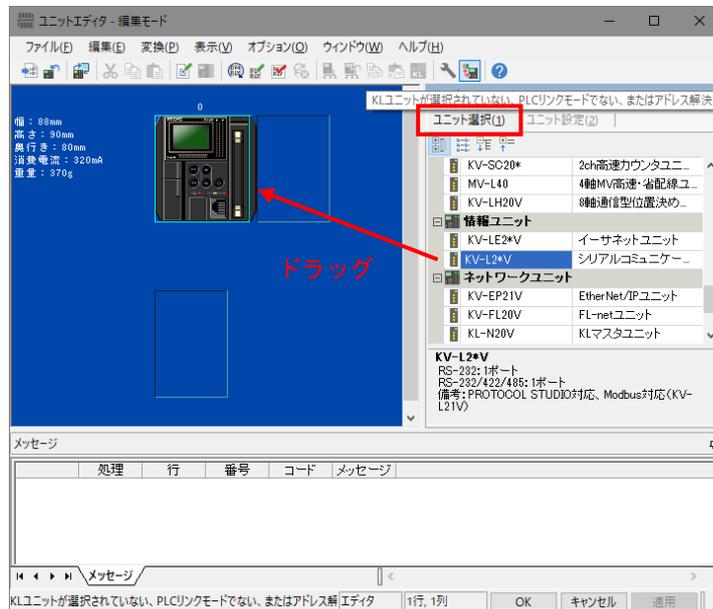
モニタッチの通信設定は完了です。
画面データをモニタッチに転送します。

KV STUDIO の設定

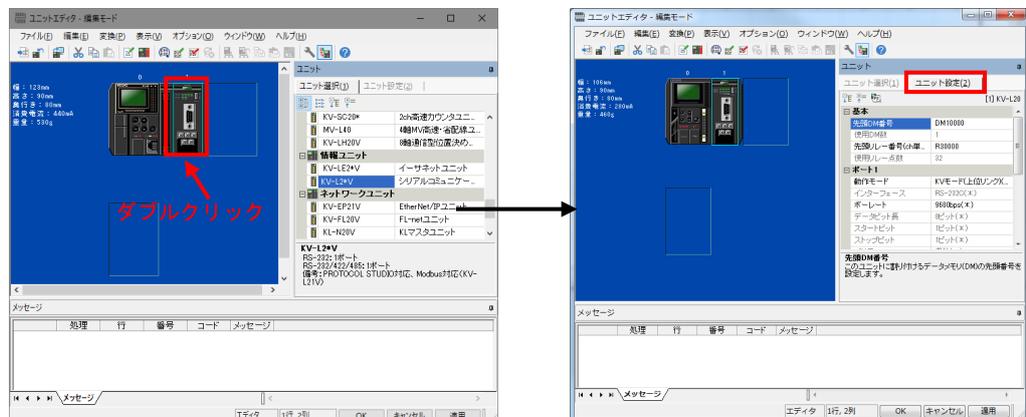
- ① KV STUDIO を起動します。
[ツール]→[ユニットエディタ]を選択します。



- ② [ユニットエディタ]が表示されます。[ユニット選択(1)]にてユニット構成を行います。シリアルコミュニケーションユニット:KV-L2*V をドラッグしてユニット構成に追加します。



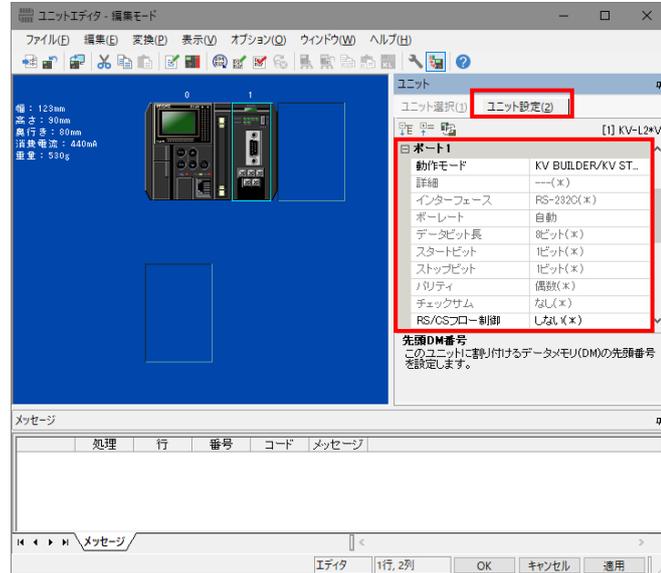
- ③ ユニット構成に追加した KV-L20V をダブルクリックして[ユニット設定(2)]を開きます。



[ユニット設定(2)]で接続ポートや動作モードの設定を行います。

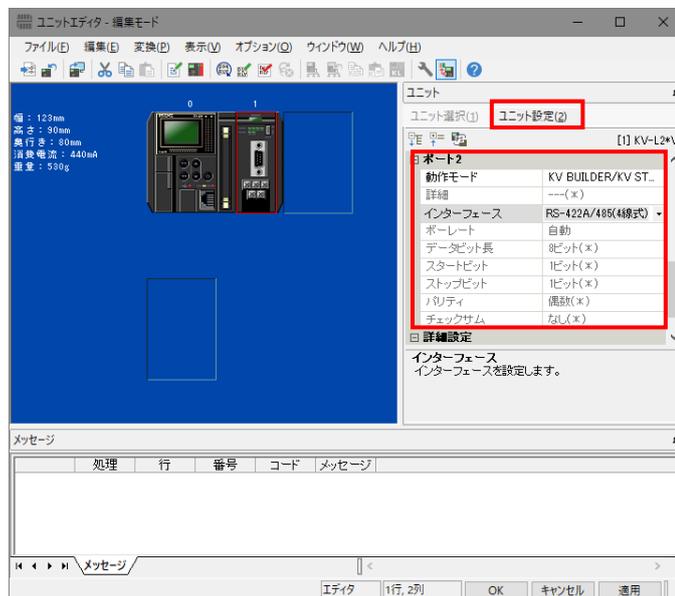
◆PORT1 で接続する場合

動作モード : KV BUILDER/KV STUDIO モード
RS/CS フロー制御 : しない

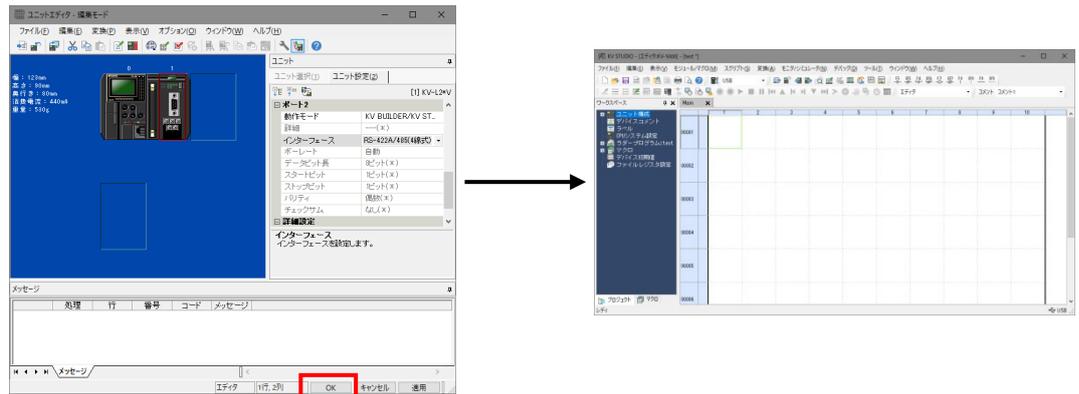


◆PORT2 で接続する場合

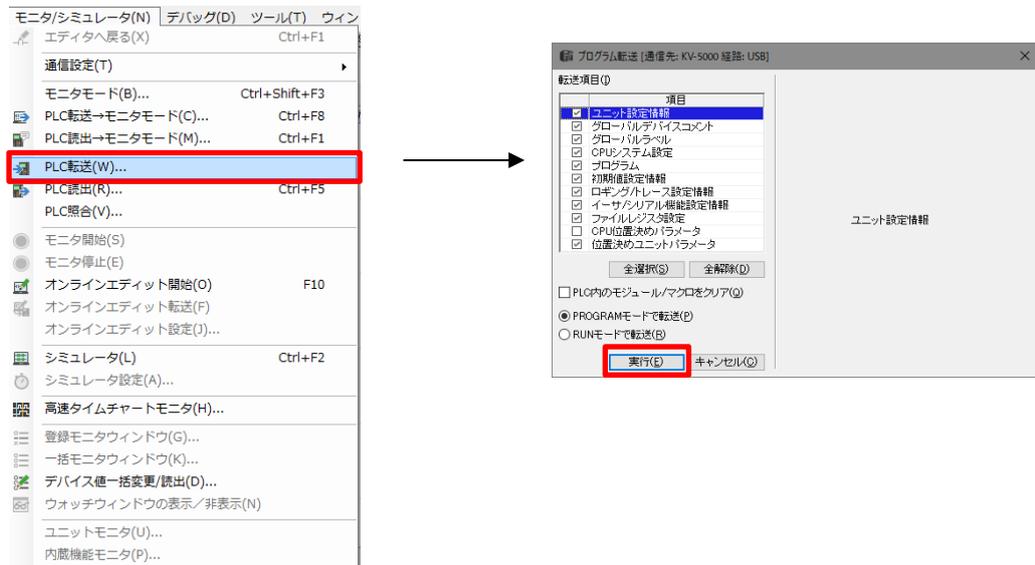
動作モード : KV BUILDER/KV STUDIO モード
インターフェース : RS-232C または RS-422A/485 (4 線式)



- ④ 設定が完了したら、[OK]で[エディタ]に戻ります。



- ⑤ [モニタ/シミュレータ]→[PLC 転送]を選択し、設定した内容を転送します。
プログラム、コメント等も全て転送する場合は、全てチェックを入れます。ユニット設定情報のみの場合は他のチェックを外しかてら[実行]をクリックします。

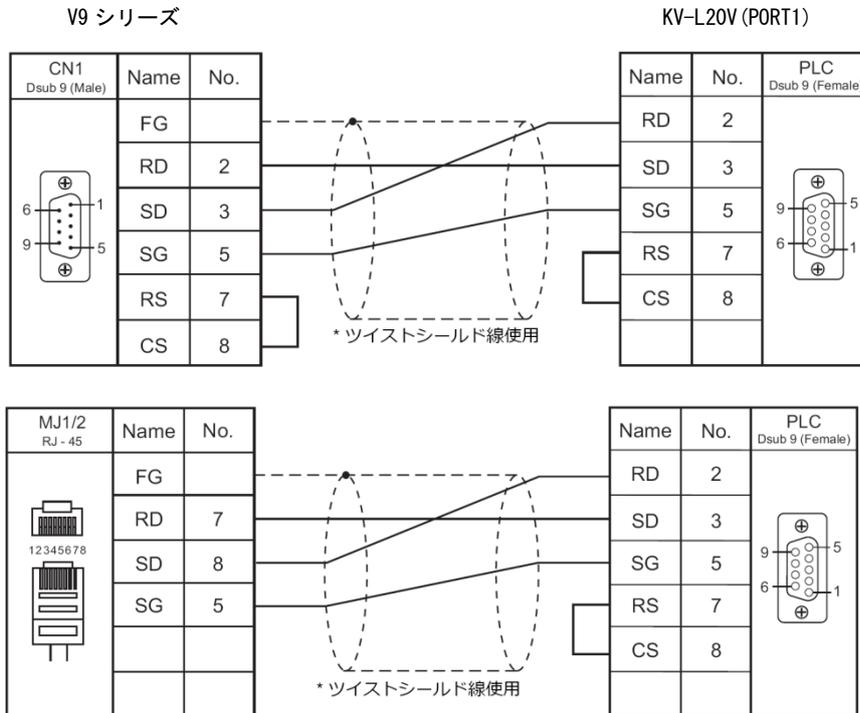


- ⑥ 転送完了後に、PLC 電源をリセットして設定は完了です。

4. 接続

◆PORT1 の場合

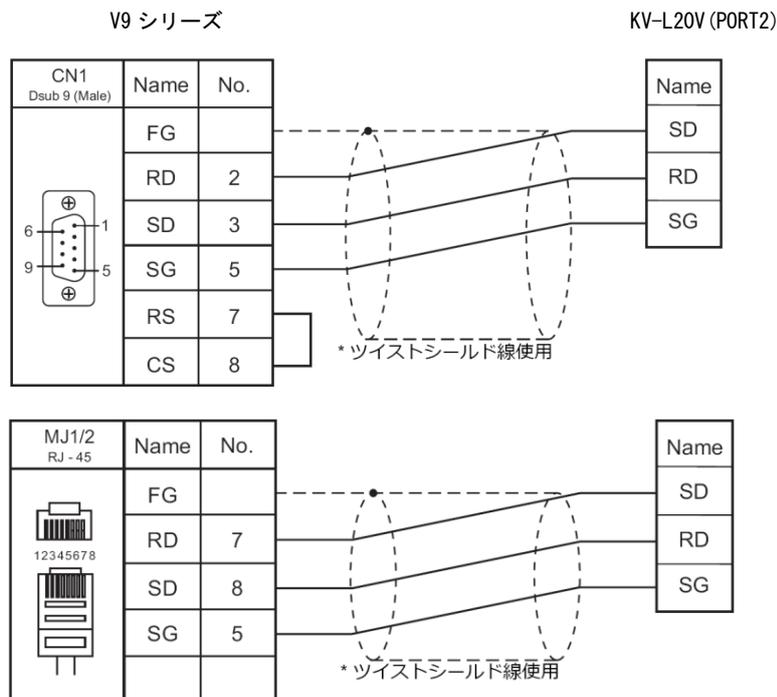
RS-232C



* V907W、V906 の MJ2 で接続する場合、信号切替用のスライドスイッチは RS-232C/485（上）に設定してください。

◆PORT2 の場合

RS-232C



* V907W、V906 の MJ2 で接続する場合、信号切替用のスライドスイッチは RS-232C/485（上）に設定してください。

RS-422

